

当社単独業績見通しにおける経常利益・当期純利益の変動要因

○ 平成31年3月期通期見通し（対前年度比較）

	31年3月期 見通し ①	30年3月期 実績 ②	増減 ①－②
売上高	7,220億円程度	7,031億円	190億円程度
営業利益	350億円程度	273億円	80億円程度
経常利益	240億円程度	132億円	110億円程度
当期純利益	160億円程度	131億円	30億円程度

【経常利益の変動要因】

(億円程度)

好転要因	悪化要因
<ul style="list-style-type: none"> ■ 水力発電量の増加による燃料費の減少 120 ■ 経営基盤強化による効率化 70 (資機材調達コストの低減、 創意工夫による工事工程の見直しなど) ■ 燃料費調整制度の影響による 売上高の増加 330 ■ 販売電力量の減少による燃料費の減少 150 ■ 火力発電所定期検査費用の減少 50 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成30年北海道胆振東部地震による影響 65 (・節電にご協力頂いたこと等による収入の減少など 20 ・石油火力発電所等の焚き増しなど 45) ■ 燃料価格の上昇による燃料費の増加 270 ■ 販売電力量の減少による売上高の減少 190 ■ 石狩湾新港発電所1号機運転開始による影響 60 (減価償却費の増加など) ■ その他 20 (新北本連系設備運転開始による 減価償却費の増加など)
差し引き 110億円程度 好転	

※「販売電力量の減少による燃料費の減少」および「販売電力量の減少による売上高の減少」は、平成30年北海道胆振東部地震による影響を除く。

【当期純利益の変動要因】

(億円程度)

好転要因	悪化要因
<ul style="list-style-type: none"> ■ 経常利益の好転 110 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法人税等の増加 20 ■ 湯水準備金の引当・取り崩し 20 ■ 特別損失の計上 41 (平成30年北海道胆振東部地震による 設備の復旧費用など)
差し引き 30億円程度 好転	